

て実現したのです。

天国のような寝室

宇宙ホテルを想像してみてください。温かい色の快適で贅沢なインテリア、柔らかい材質で覆われた室内の壁、そして室内では中に浮いている二人の体。バックグランドミュージックとして部屋の中に流れるクラシックギターの美しい音色。上下の感覚も無く、全ての壁や床（壁や床の区別は無重力では存在しません。）は衣食住すべてにおいて利用可能です。例えばミニバーとか。体を床に押さえつける力も働きませんので部屋の真ん中で浮いているのです。大きな窓からは眼下に美しい地球を眺めることが出来るのです。乱舞する雲、輝く海、そして散らばる島々が窓の中を漂うのです。それはだれも想像できないほどの美しさなのです。しかもプライベートに自分自身で密かにこの感激を楽しめるのです。この体験で心の底から何らかの強い影響を受けます。過度の自己認識、地球環境、人間の存在意義といったことまで考えるようになります。パートナーの二人がお互いに手を取り合い、そして引き寄せ合います。固い抱擁で二人は一つになり、抱き締め合い、地球と星を窓から一緒に眺めるのです。この体験はピュアな魔法のようでもあり、信じがたいほどのロマンチックな体験なのです。

理想的な宇宙ホテルの寝室がどうあるべきかについて、いろいろな意見もあります。SF作家で有名なアイザック・アシモフは1973年の性科学雑誌で彼の見解を次のように書いています。「未来の大型宇宙船にはセックスに専念するための特別な部屋が準備されるでしょう。その部屋は比較的大きく、激しい体の動作が可能でしょう。明確な壁、天井、床の区別が必要ないことから、部屋の形も球形になるかもしれません。無重力では壁や天井が意味をなさないので。家具も必要ありません。もしそんなものを部屋に置くと逆に危険です。球状の壁は洗濯も出来るような柔らかくて弾力性のある材料で覆われるでしょう。また、その材料は遊びの道具にもなるのです。部屋はさしずめ大きなトランポリンと化するのです。」なにやら楽しそうですね。すぐにでも行ってみたいくなります。

ロッド・ローデンベリ（米国のテレビプロデューサーで、スター・トレックの生みの親、ジョン・ローデンベリの息子）も球体の空間デザインを考えていました。しかし彼のアイデアでは柔らかい弾力性のある材料で壁を覆うよりも、壁を透明にして宇宙全体を眺めるほうが好みようです。それはガラスのドームのような形をしており地球も月も星も全てが眺められるような部屋なのです。狭苦しく電気配線で囲まれた部屋ではなく、

宇宙の広大さを直接実感できるという壮大なイメージなのです。星に包まれた大宇宙空間の中で二人の体が一つとなり、セックスという新たな生命の誕生に向けた“儀式”を行うのです。言葉にできないほどのロマンチックな時間が過ぎるのです。



国際宇宙ステーションから撮影された皆既日食。月の影が地球海付近を覆っている

宇宙観光協会副代表で写真家のサミュエル・コニグリオは、アシモフよりも小規模の部屋をイメージしています。一方で、ローデンベリのガラスの球体の部屋には賛成しています。「何人かの宇宙飛行士や宇宙専門家とのインタビューから受けた印象では、より小さくより親密な空間のほうに向かう傾向にあります。例えば国際宇宙ステーションで仕事をしている搭乗員は大部分の時間を広くて快適な米国のモジュールよりも、もっと狭いロシアのモジュールで過ごしています。その理由として二つを挙げています。宇宙に行きたいと考える理由は二つです。無重力環境とファンタスティックな眺めです。国際宇宙ステーションに入ると、無重力環境は慣れてしまい別に驚かなくなります。しかし、ファンタスティックな眺めに対しては、小さな窓によって眺めが制限されていることに苛立ちを感じ始めます。宇宙に行くと、テレビ映画“スター・トレック・ネクストジェネレーション”に出てくるスターシップエンタープライズの展望デッキに居るようなパノラマのような宇宙の眺めを期待するのです。」

しかし窓の大きさは現実に沿った設計になります。窓ガラスには内部の空気の圧力によって、30センチ四方のガラス面に1トンの力が作用します。そのため、大きなガラス窓は不可能に近いのです。ガラスとは違って透明のポリカーボネート樹脂では可能です。ドーム型や球体をした材料は平面状よりも構造上の強度は増します。この樹

脂は補強材で補強されるか、或いは外側に金属製の網のようなものをかぶせて補強し、窓に作用する力を少なくします。ちょうどサッカーボールの継ぎ目のような感じになるのです。それでも全体としては壮大な宇宙のパノラマの眺めを満喫できるのです。ちょうど良い大きさの窓から宇宙全体の眺めが実現されている限り、宇宙ホテルの宿泊客はハッピーであり、多少の欠点には目をつぶるでしょう。もちろんこの窓は太陽光線を遮蔽するために偏向処理されており、さらに理想的には遮光層が挟み込まれていて、電気を通すことで薄暗くしたり完全に真っ暗にすることも出来るでしょう。信じてたいほど美しい宇宙の夜明けを90分ごとに楽しむために90分ごとに目を覚ますようなカップルもいることでしょう。

私の理想の宇宙寝室

筆者の私が考える宇宙ホテルの理想の寝室とは次のようなものです。部屋はラウンジ、バスルーム、そして最も重要な寝室で構成されています。寝室からは信じられないような美しい宇宙、地球、そして星を眺めることが出来るのです。ドーム状の窓は直径が2.4メートル程度で、宇宙全体を一度に眺めることができます。ドーム状の窓はちょうど球を半分にしたような半球になっています。窓の反対側の壁は柔らかい弾力性のある壁、或いは壁上のベッドになっているのです。壁にはベルクロのような接着性のある材料が施されており、固定する必要がある寝袋や他の備品や旅行携帯品を固定できるのです。空調の空気は窓とベッドを循環するように流れています。この流れに押されてベッドと窓との間を容易に行き来できるのです。二人でベッドに寝ながら宇宙のパノラマを楽しむことも良いでしょうし、部屋の中で宙に浮いたり壁を押して移動したり回転しながら宇宙の景色を楽しむのも良いでしょう。

宇宙では液体が空中に漏れて浮遊することは大きな問題を引き起こすため、宿泊客はマティーニやウィスキー等の液体状のものは期待できませんし、液体が漏れた場合を考えて故障の原因となる電子機器は客室にはありません。壁に組み込まれた音声認識センサーによって、宿泊客の命令する声に反応して窓を薄暗くもできますし、地球から事前に送っておいた好みの音楽を再生することも出来ます。CDやDVDを持ち込むと重量が重くなるので、数百曲をデジタル信号に変換して地上から無線通信で宇宙ホテルのコンピュータまで伝送しておくのです。宇宙で物質を送るにはお金がかかりますが、無線信号を宇宙へ送るのは安価で簡単にできるのです。換気用のファンは通気管の奥に設置されているので、室内は静かで平和で楽しい空間なのです。

入口の扉の外には掃除用ロボットが待機しています。宿泊客が夕食で部屋を出るとロボットが室内に入り、壁をこすって清掃をします。ロボット式掃除機はより洗練されたマシンとなっており、短時間で部屋の隅々まできれいにします。このロボットは掃除をするときには本体の位置を固定するために壁をつかみます。

寝室の隣には扉で区切られた恐怖の“宇宙トイレ”があります。このトイレは電気掃除機のように排せつ物を吸い込むのです。しかも便座にお尻を押し付けるのです。排せつ物は目標の吸い込み口に向けて正確に用を足す必要があります。この便器を初めて使う人はただただ動揺すると思います。もし排せつ物が脇にそれてしまうと、自らの手できれいに掃除する必要があるのです。

便座の脇にはハンディーサイズから等身大サイズの抗菌タオルが準備されています。このタオルは全てのクリーニングに使います。例えば、洗面台もありませんしシャワーもありませんので、タオルを使って体を清潔にします。宿泊客はホテル従業員からすべての使用方法の説明を受けますが、それでも忘れることもありますので、説明内容を印刷して壁に貼ってことも必要でしょう。似たような状況は、映画“2001年宇宙の旅”の中で月に向かう途中で無重力トイレの説明書を読んでいるフロイド博士を思い出します。

すべての寝室が宇宙の大パノラマを満喫でき、しかもお互いのプライバシーを確保できるようにするために、寝室を豆に例えると、莢の中の豆のように連なったものになるでしょう。スペースアーキテクトのジョン・スペンサーは宇宙ホテルの寝室を設計する時に考えた最終目標のようなものを示しています。それは贅沢な雰囲気やプライバシーが保たれ、雑音をコントロールできる官能的な雰囲気作りが重要だと考えています。そして設計者としては、美しく官能的で安全な環境を作り上げることで、セックスをより高揚させることが出来るとしています。

外部から見ると宇宙ホテルは銀色のシャボン玉が寄せ集まっているような感じになります。それぞれの泡が寝室となりプライバシーを保つために鏡のようにコーティングされます。特別なテーマを元に設計される部屋も準備されます。例えば、水耕栽培で育てられている庭園植物の部屋、部屋の壁全体に土星や火星等のイメージが映し出させる部屋、或いは色鮮やかな星雲のイメージで囲まれた部屋等です。

あるカップルは地上に帰ってから宇宙での素晴らしい体験や濃厚で親密な二人の宇宙セックス体験を思い出すために記録に残したい時もあるでしょう。ある人は友人たちと一緒にそのビデオを鑑賞するでしょうし、ある人はお金のために販売したいと思う

かもしれません。事実、観淫症(他人の裸や性行為をのぞき見して、性的に興奮すること)の市場が存在するのです。かりにそのようなビデオが市場に大量に出回ったとしても、成人向け娯楽産業のこれまでの成功体験から考えるとこの種のビデオのさらなる需要が期待できるのです。このことから、部屋の隅の隠れた場所にビデオカメラが組み込まれており、自由にスイッチを操作して自分好みのビデオを録画することが出来るのです。ビデオカメラはコンピュータに接続され、撮影されたデジタル動画はコンピュータに保存されます。ただし本人以外は誰も見ることはできません。このデジタル画像は無線通信によって地上に伝送され、撮影者本人が入手するまで厳重に保存されます。

このようなロマンチックな寝室を開発することから派生するスピンオフ技術も期待できます。もし宇宙で官能的な環境を作り出すことが出来れば、宇宙病、安全、閉鎖感、騒音、プライバシーといった問題を解決できるかもしれません。多くの問題に取り組み、そして解決することで、より快適で安全な寝室が開発されるのです。つまり、よりすばらしい宇宙体験ができる環境を作るためには、まだまだ多くの課題を解決しなければならぬのです。

ジョン・スペンサーはこの点について次のように述べています。「宇宙セックス、つまり無重力セックスのための環境が快適である時とは、全ての問題が解決されたことを意味します。そのことでより多くの人々が宇宙セックスを熱望するようになるのです。逆にそのような快適な環境の中に居ると人間はより創造的になり科学的研究にも良い影響を与えます。斬新で安全な環境に居ることで人間はより快適で開放的な気持ちになり、発明や新しいアイデア、そして知覚を刺激されることから芸術分野でもより創造的になります。これらのことが本当の宇宙の価値なのです。月や小惑星を掘削したり太陽光発電衛星と打ち上げたりするのは本当の宇宙の価値ではありません。人間が追及する新しい分野、創意に富んだ行動、そして新しいものを創造することこそ、真の宇宙の価値と言えるのです。」

あなたご自身とパートナーが天空の部屋と一緒に過ごしている情景を想像してみてください。あなたは無上の喜びの状態で空中を浮いているのです。そして部屋には音楽が流れ、互いに抱き締め合いながら宇宙を飛行するのです。体に作用する力、そして運動や動作の感覚が無く、わずかに空気の流れを感じるだけです。眼下にはブループラネット地球がゆっくりと移動するのが見え、頭上には地上では絶対に見ることのできないスーパー満天の星空を眺めるのです。

未来の宇宙セックス

遠い将来には地球低軌道の宇宙ホテルだけではなく月のホテルも建設されるでしょう。そして月軌道には定住可能な居住施設が建設されるでしょう。しかし、その前に月まで到達できなければいけないのです。現在の技術では火星まで到達するためには6か月間の宇宙飛行が必要です。革命的な技術が開発されない限り、この飛行時間は変わりようがないでしょう。往復となると短くても2年間必要です。なぜなら、地球に戻るためには火星に一定期間とどまっていなくてはならないからです。火星までの長くても退屈な飛行の間、宇宙飛行士は遊びもするのでしょうか。もちろんそう思います。

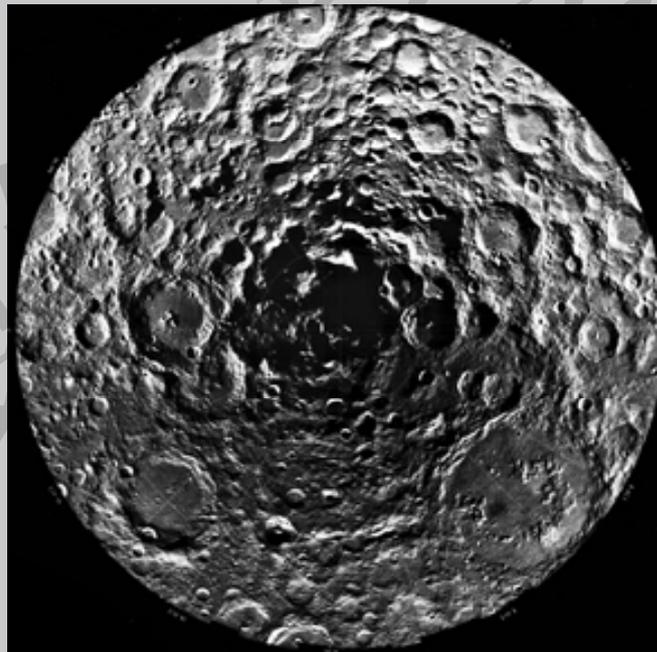
ある人は火星まで飛行する現在の展望では宇宙船は1基であり、かなり人数も制限されていると考えています。もし初期の火星探査でロボットが多用されれば、最初の有人火星探査はより野心的にできると思います。この点についてジョン・スペンサーは次のように述べています。「最初の火星有人宇宙船は6人程度の小さな宇宙船とはならないでしょう。おそらく10機以上の宇宙船で構成され、搭乗員も百数十人になると予想しています。一般的に考えている方法では実際は行われません。国際的な競争が行われ、マスコミもスポンサーとなって一大イベントとして火星に出発するでしょう。」

月へは他の太陽系惑星よりももっと早く恒久的な人間の居住（つまり定住）が実現するでしょう。もしかすると火星よりもっと早く実現する可能性もあります。ただしNASAや米政府が決める方針によって決まります。NASAが計画している最初の有人火星探査では巨大なベンチャー企業や産業が成長すると見えています。医学専門家のハーベイ・ウィッチマン博士によると、「月面ホテルは宇宙軌道上のホテル建設よりもずっと簡単にできます。ただし、月の重力が地球の6分の1の重力であることから、人体に与える低重力の影響を徹底的に研究すべきです。まだ誰も知らないのです。このことから月探査を開始し、そして徹底した研究を始めるべきなのです。」

月面のどこに基地を設けるにしても、少なくとも部分的には地下に居室を建設し、太陽爆発で発生する強烈な放射線から居住者を守らなければいけません。土は放射線遮蔽に大変有効なのです。月面基地が地下に建設される場合、暗さと閉鎖感をやわらげるために光を取り入れる工夫も必要です。月の土壌にはガラス質を多く含んでいますので、恐らく大きなガラスやシリコンの結晶が生産され、建設資材として利用されるでしょう。巨大透明結晶ガラスの柱を居住施設の中心に設けることで、太陽が昇っているときにはガラスが太陽光を反射や屈折させることで地下まで明るくすることも可能

です。居住地が極地の高い場所に建設された場合、太陽は沈むことがないので、地下の居住地には常に太陽光が差し込むことになります。

また、極地では太陽光発電でも理想的な場所なのです。月は28日間周期で自転していますので、太陽電池パネルを28日間で一周するようにゆっくり回転させて太陽を追尾させれば、太陽光発電が常に可能になるのです。逆に極地にあるクレータの底の部分はくぼんでいるため、永久に太陽が当たらないのです。そのことから、この場所の地下数キロメートル辺りには氷が存在するかもしれないと考える科学者もいます。



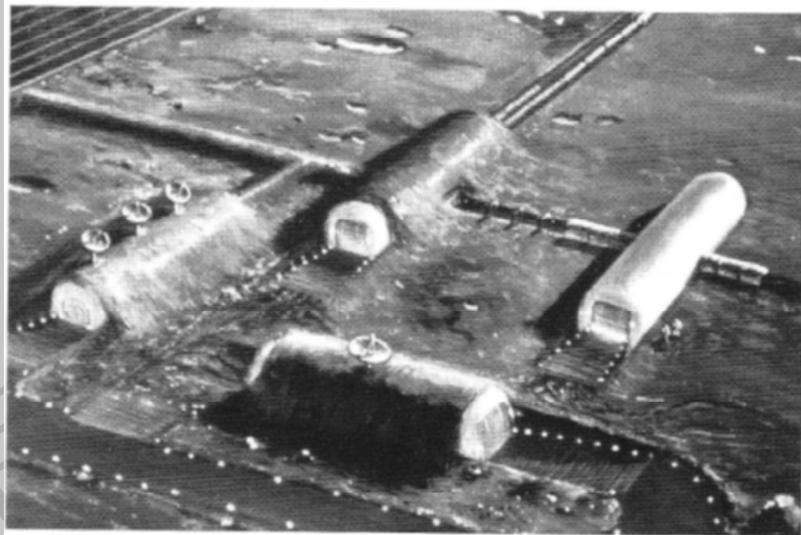
NASA月探査機“クレメンタイン”が撮影した月の南極

月が形成される過程で多くの溶岩洞が存在します。溶岩洞とは、溶岩が固まる過程で形成される洞窟です。この溶岩洞を月の居住施設に利用するアイデアも発表されています。ある技術者はこの洞窟の入り口を密閉し、内部に空気を送り込むことで簡単な月居住施設を建設する方法を研究しています。洞窟も地下と同様に放射線から人間を守る優秀な放射線遮蔽施設なのです。

女性宇宙心理学者シェリル・ビショップによると、「月面に生活するための居住施設が完成すると、重力が地球の6分の1という特徴があることで多くに人が興味を持つことは間違いありません。重力だけではなく、地球とは全く異なる生活体験を楽しめるのです。月で歩くことができますが地球とは全然違うのです。水泳も出来ますが6分の1の重力で泳ぐ感じは地球とはまったく異なるのです。」

将来は、広い分野の人々が宇宙での生活に引き付けられると思います。そこでは新し

い居住施設のデザイン、建設、維持管理など様々な作業が行われるでしょう。同時に、宇宙労働者もますます増え、当然セックスの機会がさらに増えます。その結果、宇宙家族も誕生し、地球以外の惑星で出産をする場合のリスクも明確になり、より安全に子供を授かることが可能になります。



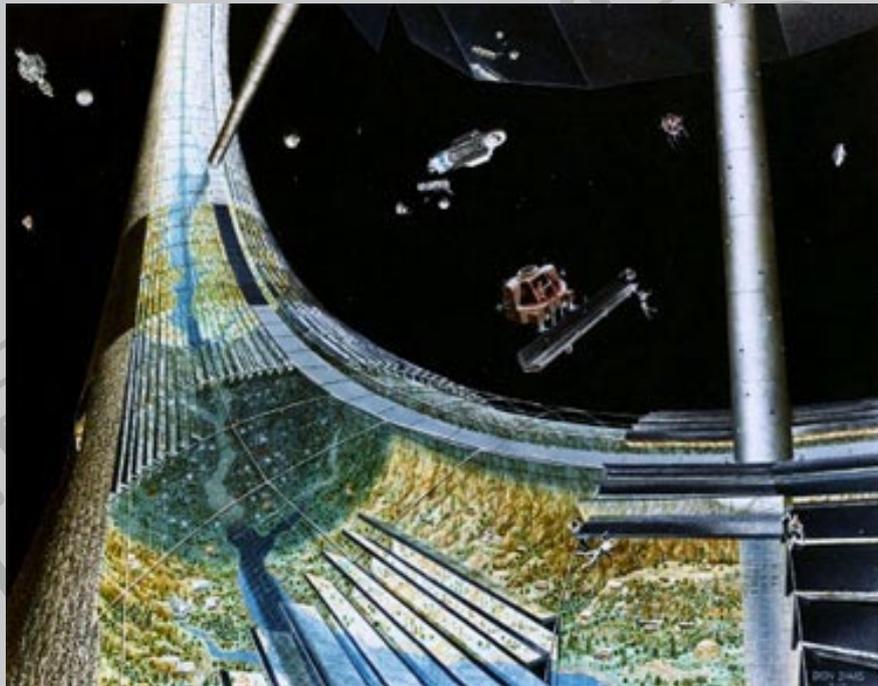
月の砂“レゴリス”で覆われた月面居住棟

人々が月でしばらく生活するようになると男女の間に愛情が生まれ家族を形成するようになります。6分の一の重力が妊娠と子供の発育に十分であると考えられています。しかし、月面での出産と育児は宇宙の囚人になるかもしれません。なぜなら、地球に帰還したときに地球に順応できるかどうかは不明です。子供たちの筋肉と骨は地球の重力に耐えるだけの強さが不足しているかもしれません。

月生まれの子供、或いは火星生まれの子供は地球から追放されるかもしれません。彼らの骨、筋肉、平衡感覚等を強化する方法を発見しない限り、子供たちは一生地球の地面を踏むことはできないでしょう。個人的にはそうならないことを望んでいます。すべての宇宙の子供が地球に戻って地面の上で走り、飛び跳ね、水泳をし、自転車に乗り、そして地球の子供と同じように成長してほしいです。地球を含めた全宇宙は全ての人々に解放されるべきでしょう。

ある人は、未来の医療技術は、低重力環境で成長した体のマイナス面を克服し、回復できると考えています。宇宙活動家のデレック・シャノンは次のように考えています。「さまざまな重力環境の違いというのは、人類が遺伝学やナノテクノロジーを征服する時に、大きな生活面での変化や生殖環境の変化の中では取るに足らない小さな問題な

のです。しかし、ここで言う医療技術の意味は、新しい重力環境に首尾よく順応することが可能になるというだけでなく、必要に応じて元に戻れるようにすることも意味しています。つまり、無重力環境で生まれた子供が、本人が希望するばエベレストにも登れるように出来る医療技術なのです。仮想現実技術で子供たちにエベレスト登山を体験させることも可能でしょうか、彼らはもちろん実際に山登りを体験したがるでしょう。」



未来の宇宙コロニー（入植地）：宇宙アーティスト ドン・デービス作

作家、音楽家で宇宙活動家のベナ・ボンタ女史は次のように語っています。「私たちが地球を越えて宇宙を探検し人間の定住に向けて努力することは大変重要なことだと思います。人類の永久的な存続の可能性を考え、太陽が消滅しても人類の歴史が記録され続ける可能性を考えることは人間にとって大変重要だと思います。

私たちの太陽系は資源で満たされています。その資源は人間の素晴らしい居住地創設のために使われるのです。太陽系の小惑星と月はいつの日か宇宙に建設する建物の資源に利用されます。宇宙で採掘することで、居住施設の建設や生命を維持するために必要な高価な燃料、コンクリート、水、空気、ガス、鉄、銅、その他の金属と工業製品の必要性から解放してくれます。宇宙資源は人類によって有効に使われることを待ち望んでいます。人類は宇宙天然資源を採掘する技術を開発する必要がありまし、天然資源を有効利用する能力の向上も必要となります。

航空宇宙エンジニアで人間工学エンジニアのジャンパー・ジェイラは次のように述べています。「私の希望としては、いつの日か、人類がいくつかの惑星にその存在を拡大することです。人類が宇宙に住む意思があるかどうかはわかりません。生物の種としての人類は他の惑星に行って他の生物と遭遇することには興味を抱いています。個人的には宇宙に乗り出したいと思っています。でも、みなさんが長期間宇宙に滞在したいかどうかはよくわかりません。もし人類が火星や月に定住する方法を見つけず、時間を費やすだけの価値が見つからず、月と火星で生活することに十分な興味を持たないとすると、その理由は月と火星が地球から遠くて荒れ果てた土地だからだと思います。しかし、私たちは地球から離れなければならぬのです。さもなければ結局は大規模な軌道上の宇宙植民地（スペースコロニーと呼ばれています。）建設しか選択肢はないのです。もちろん両方あったほうが良いことは明らかですが。」

宇宙への人類拡張の未来は、実行可能な技術が開発されれば期待できるように見えます。宇宙旅行協会副代表のサミュエル・コニグリオは次のように表現しています。「私たちが宗教、政治、技術、心理的なハードルを越えた時こそ、人類の拡張領域として星まで視野に入ってくるのです。宇宙旅行は人間の精神を拡張するものであって、技術とはあまり関係がありません。」

宇宙と定住

人類が宇宙を目指して探検をし存在領域を拡大したいと望むように心を動かすものは人間の精神であると宇宙観光協会のサミュエル・コニグリオが述べましたが、彼はそのことを正しく理解したと思います。作家で宇宙活動家のベナ・ボンタ女史は次のように表現しています。「地球以外の惑星に人間が移住するというのは、何か前もって定められたものという意味ではなく、必然的で避けることのできない人類の運命なのです。多くの人類は新しい領域へ意識して拡大しているように思うのです。」

いかなる宇宙に定住するにせよ人間という種の保存にはセックスは必然です。私たちはセックスを行う何世代にもわたる人間の産物の一つなのです。結局、地球は人間が生き延びるには危険すぎる惑星なのです。地球ではこれまでに多くの生物が消滅していますし、これからも再び起きることはほぼ確実です。ただ、恐らく人間のような知的生物種はこのような全地球規模の災害を防ぐことができるかもしれません。あるいは、地球が減じようとも、他の惑星で成長し定住生活を行うようになるかもしれません。ちにかく、地球には多くの脅威が襲ってきます。その中には人間自身が引き起こす脅

威もあります。例えば核の事故、汚染、人口爆発等です。さらに小惑星が地球に衝突する脅威も予想されています。しかし、革新的技術が開発され、地球以外の惑星に定住しようとも、私たちは全ての障害を克服し脅威から逃れることが出来ると信じています。

私たちは宇宙に拡大することに理性を保つ必要がありますし、人間の欲のために他の惑星を踏みつけるべきではありません。宇宙活動家のデレック・シャノン氏はこの点について次のように述べています。「米国SF作家のキム・スタンリー・ロビンソンの警告に気を付けることは賢明なことです。彼は、有害で苦痛を与える“自明の運命”（アメリカ合衆国のインディアンに対する民族浄化と黒人の奴隷使役によって進められた白人種の西部開拓を正当化する標語：Wikipedia）という考えと、それに似た強硬外交主義（感情的・好戦的で盲目的な愛国主義）が歴史の中ではいかなる時代でも見られる、ということ思い出させてくれます。それは人間の本能のようなものなのです。人間は人間性や知能を宇宙全体に拡張するように運命付けられているわけではありませんが、選択肢としてあり得ることなのです。別の言葉でいえば、現世代の人類が全ての人類のために最善の未来を作り出そうと努力することは絶対に必要であり、その努力の一部として月や火星、さらには他の惑星に定住しようとする努力することは明らかに重要なのです。」

将来においては、人間は変化しているでしょう。進化と自然淘汰には必要以上に時間がかかりますが、それでも私たちに強く影響してくるでしょう。でも、生物医学上の進歩によって人間は自由に楽しむ能力を手に入れ、自分自身の遺伝子構造を変えています。医者は子供が生まれる前に病気の原因を事前に除去できるのです。いつの日か私たちは地球以外の環境に適応するように自らを変化させることが出来るようになるかもしれません。その時には人類はいかなる場所でも住むことができるでしょう。これは自然淘汰のプロセスをものすごい速さで行う、現在では住むことが不可能と思われる極端な環境や想像すらできないような場所でも住めるようになるかもしれません。人類は予想よりはるかに広い領域まで生活圏を拡大するでしょう。将来は人類がエイリアンの環境にも順応するでしょう。ふと考えて、私たちが宇宙エイリアンの親になるかもしれないと考えると驚きを感じます。

セクシーなSF（空想科学）

宇宙はセクシーです。宇宙は人間の最初のボタンを押してくれます。宇宙は力を誇示

します。だからSFでは宇宙を取り上げやすいのです。SFでは常に超自然的で異様な状況が話の舞台となります。そしてSFの割以上がセックスと何らかの関係があります。SF作家はつねに未来を予測しようとします。時には的を射ますが、大部分は的が外れています。いずれにせよ、SFは愛されており、将来科学技術がさらに進んだときに、私たちにとって、そして子供たちにとって未来がどのようなものになるのか興味をそそる未来の姿を垣間見せてくれます。予測すらできないような未来の社会の出来事が常に描かれています。だからSFは面白いし、恐ろしいこともあるし、うきうきする時もあります。宇宙や未来の話で興奮する部分は常にセックスに関係しているような気がします。

SFの中でのセックスは話題としては広すぎるために本書の中では一部分だけを述べるに留めます。SFの中で描かれているセックスと社会は多種多様で、可能な限り現実的に思えるように描かれています。しかし、本書はSFの世界でのセックスについて多少なりとも議論を重ねて書いています。

まず第一番目に、SFは“未来の衝撃”（社会や技術の変化が速過ぎて衝撃的な感覚を覚えること）から読者を保護していると思います。もしSFがなかったとすると未知の未来に備えることもできませんし、絶えず起きている科学技術上の変化と社会的な変化によって私たちは動転してしまいます。二番目としてSFは、時代ごとの問題点を明らかにしてくれるし、直にその問題点を考えなくても自分自身で問題点を考えさせてくれます。そのことから、SFでのセックス描写は娯楽本として単に本の売上を上げるためだけではなく、自分達の今の社会におけるセックス行動を考えるためにも利用されるのです。そして、SFで描かれているよりももっとも近い将来に起こり得るであろうセックス行動の著しい変化に備えるためにもSFは読まれる価値があるのです。

SFとセックスについて1900年にさかのぼって見てみましょう。その年は宇宙とセックスについて初めて本が書かれた年だと思います。イギリスのSF作家ジョージ・グリフィスの『宇宙のハネムーン：A Honeymoon in Space』では、新婚夫婦が太陽系を旅行する壮大なスケールのSF小説です。この本は全体的に性行為を描写していると一般的には考えられています。米国のSF小説家エドガー・ライス・バローズの火星シリーズは1917年に初版が発行され11編まで続きました。その初版のタイトルは『火星の王女：A Princess of Mars』で、セックスを連想させる内容から始まっています。王女のロマンスがその時代としてはきわどく描かれており、10代の男子を刺激することにターゲットを絞った内容としては完璧なものでした。

米国の風刺小説作家ジェイムズ・ブランチ・キャベルが1919年に書いた幻想小説『ジャーゲン：Jurgen』は強烈なセックスがテーマとなっており、当時は発売禁止となりました。著者もわいせつ罪で起訴されました。

米国の作家オルダス・ハクスリーの草分け的作品『すばらしい新世界：Brave New World』は1932年に発行されましたが、セックスが生殖のためだけに行われるのではなく快感のためのフリーセックスとしても行われる世界を描いたのです。イギリスの作家でジャーナリストでもあった



たジョージ・オーウェルの『1984年』では厳しく残酷に禁止されたセックスを表現しています。オーウェルはフェラチオやアナルセックスといった性行動を法的に制限することに対して警告しています。このようなセックス行動に対して米国の一部の州では道徳的な理由から法律で禁止していました。

20世紀の安物SFマンガでは少なくとも表紙にセックスを使いました。露出度の高い女性の写真を頻繁に使っています。おきまりの場面と言えば、エイリアンや宇宙海賊、あるいは悪者のキャラクターが捕まえる人間の女性はほとんどが裸です。こういった場面は不快に感じますがエイリアンたちも女性が嫌いなのです。マンガや雑誌の表紙を見れば見るほど女性が重要な役割を果たしていることに気が付きます。明らかに多くのマンガの場面では女性がリーダーであり、ほとんど裸にも拘わらず光線銃や似た武器を身に着けているのです。もし女性がリーダーであるならば彼女たち自身で露出度の高いコスチュームをデザインして望んで着ていることになり



ます。

S F 映画はストーリーの中には必ずと言っていいほどセックスが含まれています。なぜならセックスは売れるからです。1960年代の風変わりな古典的なフランスのS F コミック『バーバレラ：Barbarella』は1968年に映画化され、主人公のバーバレラをジェーン・フォンダが演じました。この映画では初めから終わりまでほとんどヌードの画面が中心で、バーバレラの衣装もきわどいセクシーなものばかり、そして会話も公然とセックスを論じています。予告編のタイトルは“最高傑作の第一級映画、宇宙女性探検家、愛を得意とする地球ガール”となっています。彼女は自分の宇宙船を操縦できる優秀なパイロットで宇宙を救いますが、セックスとなると全くの世間知らずで天真爛漫となるのです。映画の筋から考えて、彼女は地球ではまったくセックスをしたことがないのです。目的の惑星に激突するように着陸した後、彼女はいわゆる“淫乱女”になるのです。

目新しいS F 映画では、『スーパーノバ』、とくに無検閲のDVD版では製作監督が無重力セックスにこだわっていたことがよくわかります。無重力の宇宙セックスに遭遇するシーンがいくつかあります。宇宙船の中央から外側に奇妙に突き出ている観測用ドームの中で二人が絡み合いながら浮いているのです。もちろん地上で撮影されたものですが、ほとんどがコンピュータアニメーションで編集されていて、ロマンチックな無重力セックスがどのようなものかを連想させてくれる大変参考になる場面です。ロマンチックな宇宙音楽も素晴らしい作品です。

1956年の古典的なS F 映画、『禁断の惑星』では性的に抑圧されており、登場する宇宙飛行士は全て男性ですが、一人のセクシーな女性宇宙飛行士“アタイラ・モビウス”が中心となっており男性が彼女に熱くなるのです。アタイラは神秘的なモビウス博士の無邪気な娘で、頭脳明晰、超魅力的、書物からセックスの知識を沢山学習していますが、彼女自身のセクシーさは身体的にも感情的にも本人が気づいていないという設定です。

映画『エイリアン』では、主演女優のシガニー・ウィーバーが強靱な女性生存者エレン・リプリーを演じています。女性としてのセクシーさをアピールしています

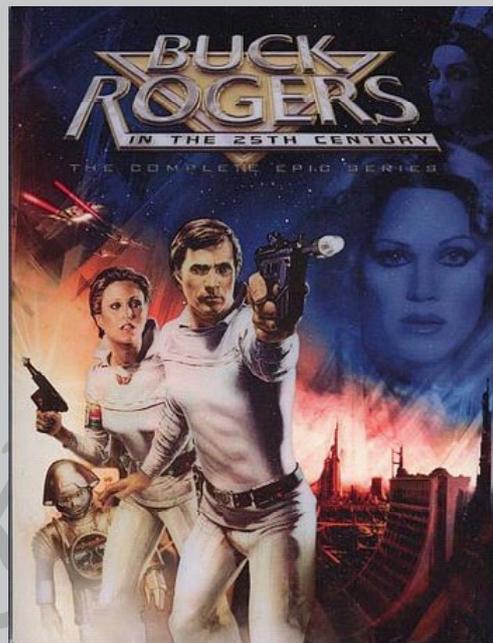


が、従来からの女性はお弱いというステレオタイプの考え方を粉々にしました。

1997年公開のSFアクション映画『フィフス・エレメント』では常軌を逸した未来ファッションでは他を寄せ付けないほど話題となりましたが、性的には含蓄のあるストーリーです。女性の登場人物“リー・ルー”は完璧な女性で、悪から宇宙を救う運命を課されています。結局は男性との愛のために彼女の使命を果たすのです。

SFテレビ映画では通常、主人公は性的空想を呼び起こす力強い登場人物で構成されます。SFテレビ映画の金字塔ともいえる『スター・トレック：Star Trek』のキャプテンと多くの男女の脇役キャラクターは明らかにセックスアピールを高めるために選ばれています。カーク船長、ピカード艦長、ヴァルカン星人スポック、ライカー宇宙艦隊士官、心理カウンセラーのトロイ等です。1979年に開始されたSFテレビ映画シリーズの『25世紀のバック・ロジャーズ：Buck Rogers in the 25th Century』では、若くて健康的でセクシーで魅力的な男性と女性の宇宙飛行士二人のアドベンチャー物語を描いています。基本的な内容は視聴者と共にゲーム感覚で楽しめるものになっています。

米国のSF作家ロバート・ハインラインは、彼の1960年代の著書『異星の客：Stranger in a Strange Land』と『月は無慈悲な夜の女王：The Moon is a Harsh Mistress』で、SFの世界をセクシャリティと結婚生活の分野に開放しました。また、米国SF作家のシオドア・スタージョンの1960年代の著書『ヴィーナス・プラスX：Venus Plus X』では性転換をテーマにした革命的な内容でした。米国SF作家のキム・スタンリー・ロビンソンの火星三部作『レッド・マーズ』、『グリーン・マーズ』、『ブルー・マーズ』では最初の火星定住を扱っており、リアルな科学的アプローチで描かれています。そして、個人的な対立、政治、心理学、文化といった人間の行動が中心となってストーリーが展開し、当然ながらセックスが重要な役割を果たしています。



米国の作家ハーラン・エリスンによる1967年のSF短編小説シリーズ『危険なヴィジョン1：Dangerous Visions』と、それに続く『危険なヴィジョン2-3』では、当時タブーとされていたホモセクシャル、売春、麻薬、性的去勢、他多数の話題を取り

上げました。『最後の危険なヴィジョン』は1973年に発行されると思われていましたが、結局様々な理由で発売されることはありませんでした。

いくつかの書物では、米国の作家ウィリアム・テンが1949年に書いた『金星と7つの性：Venus and the Seven Sexes』のようなエイリアンのセックスを描いた作品もあります。この中でテンは金星で出産するために必要な7種類の異なるセックスを描写しました。1953年にシオドア・スタージョンが書いた『たとえ世界を失っても：The World Well Lost』ではエイリアンのホモセクシャリティ（同性愛）について論じています。おそらく、1950年代の同性愛に対する自分自身の見解を社会に投げかけていると思われます。

人間とエイリアンとの性交渉は奇妙な考え方だと思います。個人的にはどこにも魅力が感じません。でも、米国SF作家のラリー・ニーヴンの著書『リングワールドふたたび：The Ringworld Engineers』ではこの話題を扱っています。この本の中で“リシャスラ：rishathra”と呼ぶ性行為が登場します。これは人間以外の種でありながら知的でヒト科の別の種族同士による性交渉を意味します。リシャスラの利点の一つは妊娠のリスクを回避しながら性の解放を実現し性交の快楽が体験できることです。SFファンの中ではこのリシャスラという言葉が流行りました。宇宙エイリアンとの性交渉を一言で表現する単語としてはリシャスラ以外現在のところ存在しません。

スター・トレックでは異なるヒト科の種族同士のセックスを取り入れています。作者は異なる種族同士の妊娠はまったく自由で可能であるように描いています。これは自然の摂理から考えて明らかに非現実的です。しかし、将来は遺伝子工学が進歩し、二つの種からのDNAを結合することで新しい種が生まれるかもしれません。これこそ異なるホミノイド（人間に似たヒト科の動物）の複合集合体が形成されると言えます。

スター・トレックの無限の結合の中の無限の多様性という考えには賛成します。そしてそれはセックスにも応用できると思います。『スター・トレック：ネクストジェネレーション』シリーズの中で第117話『両性具有ジェナイ星人：The Outcast』と表題のついたエピソードからのセリフを引用すると、「人の愛し方を誰かが命令できるとお考えですか？」このセリフのシーンは、恋愛までもが管理されている別の惑星の統制社会で、一人の女性が地球人との愛に目覚め、そのことを管理責任者に非難される場面で、この女性が管理者に向かって自分の愛が正しいことだと訴えているのです。人類が宇宙のどこかに定住したときに、身体的心理的にどのように変化しようとも愛は常に存在するのです。愛は全宇宙でも普遍なり、ということでしょう。

終わりに：宇宙定住とセックス

米国SF作家のロバート・ハインライン曰く、「地球は人類のすべての卵を入れておくには、とにかく小さすぎるし壊れやすい“かご”のようなものです。」

宇宙観光協会の会長でスペースアーキテクト（宇宙建築家とも訳せますが、建築というより、人間が生活するための宇宙施設的设计者という意味です。）のジョン・スペンサーは主要な未来学者として紹介すべきだと思います。彼はハイテック技術を使って人間に生まれつき備わっている基本的で根本的な欲望と夢、つまり探求、創造、そして種の拡大を成し遂げようとしています。宇宙は人類が向かう場所であり、生存欲、性欲、そして好奇心や探究心という人間の基本的な欲求によって人類は未知の世界に向かい続けているのです。愛は全宇宙のどこでも機能します。そして愛は私たちに未来を切り開き創造する力を与えてくれるのです。愛と宇宙は私たちの魂を満たしてくれるのです。

宇宙での人類の未来を語るときに、セックスと生殖についてほとんど議論もされませんし話題にもなりません。宇宙旅行が始まろうとしているにもかかわらずです。近いうちに宇宙でセックスが確実に頻繁に行われるでしょう。そして健全なセックス、妊娠、そして出産という重大な問題が表面化してくるでしょう。生科学者のレイ・ノーナン博士は人間のセクシャリティと宇宙飛行に関する彼の博士論文の序文で次のように書いています。「人間性はどこに行こうとも、人間のセクシャリティ（性的関心）は確実に引き継がれます。」つまり、人間性の本質の結果としてセクシャリティを宇宙規模で考える準備をした方が得策だということです。セクシャリティは人間の全ての基本と言えます。

作家で宇宙活動家のベナ・ボンタ女史は、その状態を次のようにうまく表現しています。「人類は過去何千年もの間、宇宙で愛を育みセックスをしてきました。私たちの先祖は小規模の狩猟採集民族として生活を営みながら移動してゆきました。地球は宇宙の一部なのです。宇宙セックスはセックスをするために地球以外の場所に行くのではなく、究極的には地球近隣を越えて私たちが属している大宇宙の中で人間の領域を拡大してゆくことなのです。」

宇宙セックスは特異なものですが興味もわきます。無重力状態の中で宇宙の壮大な眺めを楽しみ、新しい環境でパートナー同士がより親密になる夢を見ることがあります。

最終的には目新しさは消えてゆきますし、無重力に対応する難しさが逆に問題となるかもしれません。長い目で見れば、地球は人間にとって住みやすく、そしてもっとも官能的な惑星だと証明されるかもしれません。米テレビプロデューサーのロッド・ローデンベリが言うように、「重力は問題ないけど、低い重力は難しくて嫌いだ。楽しい時間を過ごすには地球が一番だ。」ということです。

宇宙セックスは読者の興味を刺激したと思います。好奇心も満足したと思います。そして最後のフロンティアである宇宙でセックスをすることの利益と結果についてもご理解いただいたと思います。この本を読者のために書くことに大変喜びを感じましたし、この「宇宙とセックス」によって読者の心がすこしでも満たされれば幸いです。

参考

以下は NASA の正式な文書ではありません。でも宇宙とセックスについてのギャグっぽいレポートがインターネットのサイトでは沢山見つかります。でも作者が不明だし内容も信用できないようなものも多くあります。この文書が NASA の正式の文書ではないにしても、事務的で典型的な公式 NASA 文書と酷似しているのです。その意味ではよくできた文書と言えるでしょう。ただ、セックスはそもそも事務的な題材ではありませんが、この文書を書いた作者は宇宙セックスを NASA の実験報告書のように事務的で政府文書的なかたちで描いている点がおもしろいです。でも、何度も申し上げますが本物の NASA 文書ではありません。

実験その 8 宇宙飛行後の実験報告書要約：NASA 文書 14-307-1792

要約

この実験の目的は、宇宙ステーションが完成した場合、夫婦が長期宇宙研究に参加する場合に備えるために行ったものです。最終的には研究者は、スペースシャトルミッションによる無重力軌道上環境における継続的な婚姻関係において可能な夫婦生活の過ごし方のいくつかを実証研究しました。

基本的に得た結論としては、満足な (性的) 婚姻関係は無重力のなかでも可能ということです。しかし、多くの夫婦は、我々がもっとも満足するセックスの方法に慣れるのは容易ではありませんでした。

何組かの夫婦が、現在米国で進んでいる宇宙ステーション利用の長期宇宙実験プロジェクトに参加していますが、すでに実験も数年以上の実績を重ねています。その中で浮上している問題は深刻なものです。重力の無い環境で正常な夫婦関係を保ち続けられる夫婦が一体何組ほどいるのか、疑問視されるようになっているのです。

短期無重力環境での予備実験が放物線飛行の航空機を利用して実施され、問題が存在することが明らかになりました。ただ、無重力時間が短すぎるため満足のゆく実験結果を得るには至っていません。似た実験が水中の浮力利用実験でも行われましたが呼吸装置が邪魔となり、航空機ほどの成果は出ませんでした。

これらの初期的実験から、時には伝道師的な立場として見られることもある従来の夫

婦は、セックスの時に相手と密着状態を維持するために重力に強く依存している、という結論を得ることができました。この結論から、スペースシャトルSTS-75実験方法と呼ばれる一連の実験方法を提案することになりました。

被験者（夫婦実験参加者）らは、スペースシャトルが宇宙を飛行している間、1時間ごとに10回にわたってシャトルの一部の空間を夫婦専用に使用することが許可されました。その1時間の間、夫婦被験者はシャトルの他の部分との間の防音壁となる音を発生させることが許されました。その音によって他の宇宙飛行士に対して気兼ねすることなく実験（宇宙セックス）を十分に行うことが出来ました。

各実験は、一つ一つの問題を確実に解決するという考え方に沿って予め実験内容が綿密に計画されました。我々研究者は参考資料1に示すような満足のゆく問題解決方法を見つけ出す中で、すでに発表されている資料を積極的に参考にしました。そして、20件の合理的な解決方法を導き出しました。そしてコンピュータシミュレーションを使用することで最も有望な解決方法として10件に絞りました。シミュレーションにはCADSI社の機械力学シミュレーションソフトを使用しました。

6件の解決方法には、重力の効果を模擬的に発生させる為に機械的に拘束する方法を採用しました。他の解決方法には問題解決の為に被験者の自助努力に任せることにしました。機械的に拘束する方法とそうでない方法が交互に行われ、実験は後に分析を行うために全てビデオテープで撮影しました。各実験を実行（注：宇宙セックスの実行の意味）し、被験者の個別観察データが記録された直後に、研究者と一緒にビデオテープを見ながら共同で観察データをレビューしました。

ビデオテープなどの観測データはプライバシー保護の観点から一般に公開しませんでした。ただし、実験結果の要約版を作成し発表の準備をしました。また、NASA内部利用に限定して訓練用ビデオテープを公表する予定です。このビデオテープは要点のみを切り取って組み合わせたナレーション付きの編集テープです。

以下の要約は二部で構成されています。第一部は機械的な解決方法について、第二部は“自然的”なアプローチで書かれています。各解決方法はまずは最初に要点のみ書かれ、続いて実験結果が要約されています。

第1の方法

夫婦の腰回りに弾力性のあるベルトを締め、互いに向き合います。

最初は難しかったですが、一旦向き合うことが出来ても、その姿勢を維持することは容易ではありませんでした。お尻廻りにベルトを着用すると、最初は簡単でしたが必要とするピストン運動を続けることは容易ではありませんでした。その結果、この方法は満足のゆく方法ではないことが判明しました。

第2の方法

夫婦それぞれの腿のまわりに弾力性のあるベルトを締めました。女性の臀部（でんぶ：胴の下の後方、肛門周辺）を男性の股間に密着させ、女性の背中を男性の胸にもたれかかるような姿勢を取りました。興味深い実験ですが、最終的には男性側のピストン運動が難しいため不満足な結果となりました。

第3の方法

女性の腿（もも）と男性の腰を弾力性のあるベルトで結びつけました。女性の臀部（でんぶ）を男性の股間に押し付けるようにし、女性の膝（ひざ）を男性の胸に大きく広げるような姿勢を取りました。この弾力性のあるベルトの使用は極めて不満足な結果となりました。最初は難しかったですが、女性の爪先を男性の腿（もも）の上に固定する方法を会得すると、女性側が前後運動を行うことが出来ることを発見しました。男性は受け身の姿勢となりますが快感を得ることはできました。

問題は、ゴムのような弾性のあるベルトを使用することで、夫婦ともども、ボンテージを想像させる不快感を覚えたことです。でも、ボンテージの趣味を持っている夫婦や女性上位の関係を楽しんでいる夫婦ならばこのベルト使用の姿勢に違和感を覚えることは無いでしょうしお勧めできます。

第4の方法

膨張式のトンネルのような装置に二人が入って体を密着する方法も研究されました。この時の体位は従来型で一般的な正常位の姿勢となります。夫婦を包み込むこのトンネルは膝から腰あたりを包み込みます。筒状の空気マットのようなこの装置の気圧は標準大気の1パーセント程度の圧力であり、それほどきつく体を押し付ける感じではありません。

一旦適度に性的行為が始まると、トンネルによる等圧力が正常なセックスを快適にしました。ただ、十分な刺激を得ることは難しかったのと、一旦トンネルを出た後、再びトンネルに潜り込むのは大変難しいことがわかりました。この問題によってこの手法全体があまり快適なものではないとの評価結果となりました。

第5の方法

4回目の実験でも使用されたものと同様の膨張式トンネルを、夫婦の足回りだけを包むように使いました。夫婦は通常の正常位の姿勢で向かい合いました。

第6の方法

第4の方法の実験で使用した膨張式トンネルを再度使用しましたが、夫婦の体位は第2の方法のと同じ姿勢で行いました。実験では前戯は満足いく結果が得られ、第4の方法の時と違ってトンネル内で最後まで達成できることが判明しました。ただ残念ながら第2方法も第4の方法でも挿入することはできませんでした。

このトンネルを使用する方法は基本的に欠点があり、体が汗をかいたときにトンネルの表面が体にくっついてしまうのです。さらに静電気が発生して痛みの原因となる放電現象も発生します。無重力環境でトンネルの内部を常に乾燥した清潔な状態に維持することが困難なため、このトンネルを使用した宇宙セックスは良い方法とは言えないという結論に達しました。

第7の方法

標準的な正常位で、女性の足を男性の大腿部に巻きつけて抱え込み、互いに抱き締め合うような姿勢で実験を行いました。

第8の方法

第3の方法の体位（女性の腿（もも）と男性の腰を弾力性のあるベルトで結びつける）を一部変更し、女性がかかどを使って男性のお尻を抱え込みながら体を押し付ける方法を試しました。最初は大変興奮したことから有望な方法だと考えられましたが、いざ絶頂に達しようとしたとき、予期しない問題が発生しました。絶頂に達しようとする、女性は男性を放してしまう傾向にあり、男性が射精に至るまでピストン運動を続けることができなくなるのです。この点について、十分に自己のコントロールができる夫婦の場合に、この体位が有効であると言えます。

第9の方法

第2の方法の体位を多少変えてみました。男性は女性を腕で抱きかかえ、女性がかかどを使って男性の大腿部（もも）の部分を抱え込みました。この体位の成功の大部分は男性側の努力に依存しましたし、成功に至るまでに何度も失敗を繰り返しました。ただ、特に価値ある経験を積んだというわけではありませんでした。

第10の方法

お互いに股の間に顔をうずめながら、腕を使って互いの腰回りを抱き締めました。この実験は唯一夫婦ではないカップルが挑戦しました。この二人が実験メンバーに加わった理由は、最も多くの種類の抱き合う方法に挑戦してくれたからです。この方法は四点でお互いに抱き合うことで離れてしまうことも無く、もっとも満足のゆく体位であることが判明したのです。実際この体位は重力のある場所で模擬的に行ったときよりも無重力環境の方がより快適に性行為を行う事ができることが分かったのです。

結論

夫婦が宇宙でも婚姻関係を維持したいのであれば、第3の方法で使用する弾力性のあるベルトをお勧めします。さらに、第3から第10の方法を実現するためのトレーニングを受けるべきです。第7と第8の方法で起きた問題点については慎重に対処してください。

NASAが夫婦関係の二人に勧めようとした方法は、夫婦間の人間関係にとって少し危険ではありますが、特に長期宇宙ミッションの場合はかなり二人の関係を危険にする方法だと考えています。第3と第10の方法を受け入れ、慣れるように事前に適性検査を行い、訓練も十分に行ったとしても、リスクの高い方法であることには変わりありません。